

してさげ申候。そうじて下すだれは、たれくもかけ申まじく候。かうゐの女房衆御かけ候。九所
 がな物。七所がなものまでもかけられ候。五所のこしには、かけ申まじく候。○中
 一御こしの下すだれの長さ、上様のは六丈やくたるべし。御玄んるいなどは、五尺六寸、すそご也。
 【婚禮問答】こしは白木のこしたるべく候哉。如何。○中 御こしには、すだれの内に、下すだれをかく
 る。下すだれとは、すゝしの絹に、ふとく横筋を青く染め、又は、すそごなどに染て、上すだれのうち
 より引とほして、上がへを上へなして、こしのやねの如く、むねをたて、かくる也。下の方のうら
 に綱をぬひ付て、下るをいなつなと云。白黒又は白紅になひませにして、先にふさを付る也。す
 そのきぬも、いな綱も、ながえの外へ出してさげ申候。上のすだれの下より、長くさがり出る也。
 すだれは、高位の女房衆、かけらる、也。九所七所がな物のこしには、すだれの外にかくるなり。こ
 れをみせぎぬと云。五所のこしには、みせぎぬもかけ申さず候。下すだれの長さ、高位の人の六
 尺たるべし。其次は五尺六寸、但何も一方の長さ也。兩方合て一丈貳尺、又其次は一丈一尺貳寸也。
 すそごとは、すそ程色を段々こくする也。

【貞丈雜記】一こしの下すだれの事は、婚入記にあり、今かけやうの繪圖、左に記す、

一幅を如此折てかくる也、兩方にて二幅ナリ、

下簾の圖

三角のかどくを、
 折釘にかくる也、
 三所糸にてわな
 をしてかくる也、

